

A. 概論

- ・ 記述様式は「Ⅰ 臨床」と「Ⅱ 病院管理・ソーシャルスキル・教育・研究」によって異なります。「Ⅰ 臨床」についてはPOS (Problem Oriented System) 方式の病歴要約を作成してください。「Ⅱ 病院管理・ソーシャルスキル・教育・研究」については、事例を選定した理由、事例の記述と考察、総合考察について作成してください。
- ・ 全てパソコンで作成してください。A4用紙2ページ以内とします。文字の大きさは明朝体11ポイント（図表に関しては変更可能）とし、適切な行間で作成してください。
- ・ 事例の選択については到達目標にある中分類からテーマを選択してください（例：診断学、全身の症候・病態、地域と連携、リーダーシップなど）。
- ・ その事例報告書の内容を端的に表したタイトルを記載してください。
- ・ 作成に用いる理論やフレームワークについては、プログラム本文ならびに教科書を参照してください。その他のエビデンスを利用しても構いません。
- ・ 文献：EBMを重視し、事例に適した原著論文、ガイドライン、レビューなどを引用し、必ず本文中に記載してください。
- ・ 総合考察では、本制度で求められる病院総合診療専門医の具体的な医師像を含めてください。記載にあたり、以下の10項目から主たるものを1つ選択してください。
 1. どのような疾患・病態の患者でも断らず、全人的医療を実践するマインドを持つ
 2. 病院の外来、救急、病棟、集中治療室において標準知識に基づき診断・治療・予防・患者説明を遂行できる
 3. 地域包括ケアの要としてコミュニティとつながる病院診療を実現することができる
 4. 医療の限界と医療資源の有限性を理解した医療の質を重視する診療を実践できる
 5. 病歴、身体診察、基本手技全般に長け、その実践と教育を重視した臨床活動を行う
 6. 診断困難な症例では戦略的思考を駆使して最適解を追求できる
 7. 院内の臓器別専門科、各医療職と緊密に連携した柔軟性・弾力性の高い医療を提供できる
 8. 次世代の病院総合診療医を育成する心に溢れ、俯瞰的な視野で卒前・卒後教育を実践できる
 9. 様々な部門や階層での組織マネジメント技術に長け、院内診療の最適化に貢献できる
 10. アカデミックホスピタリストの視点で、臨床研究を通じ病院総合診療分野の発展に寄与する

- ・ 教育責任者の署名・捺印については、原則としてプログラム責任者からもらってください。
- ・ 作成にあたっては記載例を参照してください。

B. 評価方法

- ・ 提出された事例報告書のグローバル評価（A、B、C、F）で採点します。
*A：優れている、B：平均的、C：合格基準を満たしている、F：不合格
- ・ グローバル評価で不合格（F）となった者については、複数の評価委員で二次評価を行い、最終評価を決定します。
- ・ 試験終了後、事例報告書評価結果を受験生に通知します。

C. 評価項目

- ・ 事例報告書の記載が本作成の手引きにしたがっているか。
- ・ 記載について誤字・脱字、検査データなどの転記ミス、単位の間違い、文章表現の誤りなどが無いかな。
- ・ 「Ⅰ 臨床」について、診断プロセス・治療法などは適切か。
- ・ 「Ⅱ 病院管理・ソーシャルスキル・教育・研究」について、適切な理論やフレームワークが利用できているか。
- ・ 十分に考察されているか。
- ・ 倫理的配慮がされているか（患者個人情報や紹介元医療機関名などを消去など）。

次のような例は不合格（F）評価とみなされる。

- ・ 評価項目で合格基準に達していない。
- ・ 他人が作成した事例報告書を転記した。
- ・ 実際に受け持っていない/経験していない事例について事例報告書を作成した。
- ・ 個人情報への配慮が著しく欠けている。